

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第90号 (H31.1.18)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに

平成 31 年となりました。皆様には良い新年を迎えられたことと思います。

さて、当法人も設立から足かけ 8 年目となります。新しい年を迎え、改めて皆様の温かいご支援に心から感謝申し上げます。

特にテレビでザンビアでの活動のドキュメンタリー番組が放送され、お陰で多くの皆様に活動への関心を持っていただくとともに、多大のご支援をいただき、様々な取組を進めることができました。重ねて御礼申し上げます。

平成 31 年は、念願のヘルスポストをルアノ地区に建設できるよう、大使館や関係者のご協力と、皆様からのさらなるご支援をいただければと考えております。

活動の厳しさも感じていますが、スタッフと一緒に活動を進めていきたいと考えております。

今年もどうぞご支援のほどよろしく申し上げます。



*平成 30 年 12 月 18 日、アフリカ協会矢野会長とご一緒に大統領と面会し、支援をお願いしました

会の経過報告等

・現在、平成 30 事業年(1 月～12 月)の活動まとめ、決算等を行っています。詳しくは次回のニュースでお知らせします。

・平成 30 年一年間の主な活動状況は以下のとおりです。

・2 月 3 日理事会の開催、2 月 25 日総会の開催により、29 事業年の活動報告、決算及び 30 事業年の活動計画案、予算案協議

・3 月 27 日、第 14 回ヘルシーソサイエティ賞授賞

・5 月 30 日、宮崎の放送局「UMK テレビ宮崎」制作ドキュメンタリー番組「道なき道の彼方へーへき地を診る医師ー」が放送

・7 月 11 日、臨時理事会の開催、法人所有車両が故障で全て動かない状況のため、現地での日々の活動のための小型自動車購入への支出について審議、購入を承認
(巡回診療はレンタカーで対応)

・8 月 16 日、宮崎日日新聞社、宮日文化情報センター主催による宮崎政経懇話会特別講演会「ザンビアの辺地での巡回診療活動」と題して、県内各地から集まった約 200 人の方々の前で講演

・9 月 16 日、ザンビアの辺地医療を支援する会支援チャリティゴスペルコンサートが開催

・10 月 8 日臨時理事会、10 月 10 日臨時総会の開催、故障車両の修理費用 140 万円の支出と、今年度の予算を修正する案について審議、承認。

・10 月 27 日、UMK テレビ宮崎制作ドキュメンタリー番組が第 27 回 FNS ドキュメンタリー大賞にノミネートされ放映。関西地域でも 11 月 13 日に放映。多くの方から反響あり。

・11 月 16 日、6 月に申請していた「風にたつライオン基金」事務局から交付決定の連絡。

「コミュニティヘルスワーカーのマラリア予防及び治療の支援」活動に活用中

・11 月 20 日、午後 8 時、「道なき道の彼方へーへき地を診る医師ー」が宮崎県内で再放送。



ヘルシーソサイエティ賞授賞式

現地活動報告（ザンビア山元香代子先生から 12月27日受領）

11月14日はルアノでの巡回診療。患者数は70名、マラリア陽性は67名中0名。肺炎の子供を抗生剤の投与後チペンビヘルスセンターに連れて行く予定でしたが、母親は待ち合わせの場所に現れませんでした。必要分の抗生剤は渡していましたが、おそらく父親がヘルスセンターに行くのを反対したのではないかとのことでした。

11月21日はニャンカンガでの巡回診療。患者数は65名、マラリア陽性は62名中0名。

11月28日はルアノ郡リテタではじめての巡回診療。朝早く出発し、途中水嵩の増した川は住民が準備してくれたバナナボートで渡りました。多くの患者が待っていて109名を診察し、マラリア陽性は107名中18名。血便のみられる赤痢疑いや下痢の患者が55名いて、浅井戸や川の水を飲料に使っているためと考えられました。雨季に診療に行くのはむずかしいと考えました。

12月5日はサンダラでの巡回診療。患者数は35名と少なく、マラリア陽性は33名中0名。11月28日にリテタで診療を実施したので、その影響と考えられました。4名の日本人が同行し、お手伝いしていただき、ありがとうございました。

マラリア蚊の殺虫剤噴霧は、11月11日ルアノ終了、180家族 320戸実施しました。ニャンカンガは11月16日から19日まで、141家族 258戸実施しました。殺虫剤噴霧を始めてマラリア患者は減っていますが、ルアノでは、毎回噴霧を拒否される家族が増えてきていて、このまま年2回の噴霧を継続すべきかどうかは十分な検討が必要です。

12月6日、7日はコミュニティヘルスワーカー8人のリフレッシュ研修を実施。しかし、昨年養成したサンダラの一人は結婚して他の地域に引っ越してしまい、代わりに、診療の手伝いをしてもらっているコミュニティヘルスアシスタントの一人に参加してもらいました。小児保健のマニュアルを復習し、薬剤の処方、特に抗マラリア薬に関する注意事項、レポートの書き方などを彼ら自身のレポートをチェックしながら指導しました。

私は私用のため12/12にはルサカを発ち帰国しました。この日は巡回診療の日で事務所には誰もいなかったのですが、私が事務所を出て1時間半後（午後3時頃）に裏口のドアをこじ開けられて、泥棒に入られました。私の寝室のクローゼットに入れていた金庫が盗まれました。その日の午前中に大きなお金は日本人に預けていたので、金庫の中は私個人のお金約3万円と運転免許証、様々な書類の原本でした。事務所内にたまたま置いてあった運転手の新品の自転車はそのままだったこと、薬剤は盗まれていなかったことなどから、運転手の関係者の犯行ではないかと疑われていますが、確証はありません。犯人が捕まる可能性はほとんどありません。留守をお願いしている日本人の方が警察の調査などに立ち会って下さり、とても助かりました。また鍵を全て取り換えていただきました。ほんとうにお世話になりました。ありがとうございました。今後も同じ体制で活動を継続するのは難しく、誰かが常駐しないとイケないのではと考えています。乗り越えないといけない問題はいろいろあります。雨季の間、診療は中止になることもあるかもしれませんが、活動は続いています。これからもみなさまからのご支援をよろしく願い申し上げます。ありがとうございました。



リテタ巡回診療の様子



ザンビア大使館便り

・平成30年12月19日、ザンビアにおける感染症対策のための無償資金協力「経済社会開発計画」の調印が行われました。

・東京において、訪日中のエドガー・チャグワ・ルング・ザンビア大統領 (H. E. Mr. Edgar Chagwa Lungu, President of the Republic of Zambia) 及び安倍晋三内閣総理大臣の立ち会いの下、側嶋秀展

駐ザンビア大使とマーガレット・ムワナカトウェ財務大臣 (Hon. Ms. Margaret Mwanakatwe, Minister of Finance of the Republic of Zambia) との間で、5億円を供与限度額とする無償資金協力「経済社会開発計画」に関する書簡の交換が行われました。



この計画は、ザンビアの人獣共通感染症検査施設であるザンビア大学獣医学部において、老朽化した医療機材の更新を実施することにより、感染症対策に係る研究及び臨床能力の向上と質の高い人材育成を図り、ザンビアにおける感染症の早期発見及び対応に寄与するものです。

賛助会費の納入と寄附受領証明書の送付について

・新しい事業年度（事業年度は1月から12月）となりました。賛助会費（個人一口5000円、団体一口10000円、一口以上）及びご寄附（金額は問いません）のご協力をお願いします。

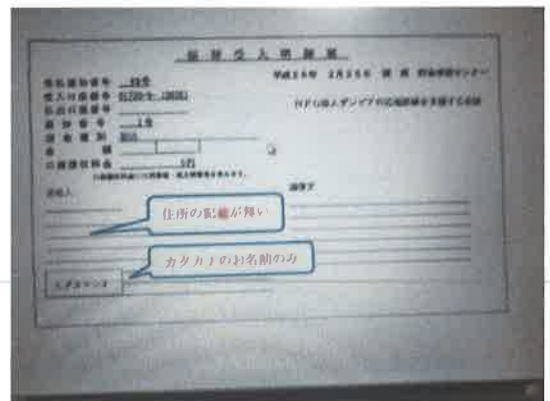
・入金を確認しました際には、日高からその旨メール（又は郵便）を差し上げます。また当法人は認定NPO法人であり、ご寄附（賛助会費含む）いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書（賛助会費も寄附金と同様税控除の対象）をお届けしますので、確定申告の際まで大切に保管しておいてください。ご不明の点は日高（info@ormz.or.jp）までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号 01720-9 口座番号 126351
加入者名 NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351
加入者名 : NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称（全角）：トクヒ ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ

*なお、WEBにてゆうちょ銀行への振り込みをされる場合、御住所を記載していただきますようお願いいたします。受け入れ明細書の送金人の欄にカタカナのお名前のみしか記載されていない場合があります。事務局としてご寄附いただいた方がわからないことがあります。よろしくお願いいたします。



お詫び

昨年11月から12月にかけて、会のアドレス info@ormz.or.jp へのメール送信に際し、配信エラーが発生する事態が生じました。システム管理会社に連絡し、現在は正常化しております。ご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

以上

平成31年もどうぞご支援のほどよろしくお願いいたします